

登城・散策の注意!

弥高寺は国が指定した大切な史跡です。見学の際に石垣や土塁などの遺構を壊さないよう注意してください。地面を掘り起こしたり、火を使うこともご遠慮ください。



登城道は、山道です。トレッキングや軽登山の装備でお出かけください。



伊吹山には、ツキノフグマが生息しております。近年、ふもとの集落でクマの目撃情報が相次いでいます。危険ですので複数人での散策・登城をおすすめします。クマやシカ・イノシシにあわないよう、鈴・ラジオなど音の出るものを携帯し、人が山に入っていることを知らせるようにしてください。
また、ヒル・ハチが出る場合があります。ヒルは、肌の露出を少なくし、ヒル避けスプレーを足もと、首筋などに吹き付けるなどの対策を各自でお願いいたします。ハチは黒いものを攻撃する性質があります。また匂いに刺激され攻撃します。白色系の帽子をかぶり、香水など匂いの強いものは控えてください。



弥高寺へのアクセス

JR近江長岡駅から湖国バス曲谷線でジョイ伊吹バス下車。徒歩約1時間30分~2時間

発行元 米原市教育委員会 TEL.0749-55-4552 FAX.0749-55-4040

米原のお城に登ってみよう!!

弥高寺

国史跡

トレッキングマップ



大門跡 弥高寺の出入口!

弥高寺遠景 当時の姿を想像してみよう!

埋蔵文化財公開活用事業



弥高寺跡 周辺マップ



弥高寺は、山岳修験の祖といわれる役行者や加賀白山の素登が入山し、仁寿年間(851~854)、三修によって整えられ、のちに国家公認の定額寺となった伊吹山寺を前身とします。のちに分立した伊吹山四ヶ寺(弥高寺・大平寺・観音寺・長尾寺)の中心的寺院だと考えられます。
60を超える坊跡群は、東西約250m、南北約300mの範囲に集中し、「本坊(本堂)」は東西約68m×南北約59m。中央山手に基壇状の高まりがあり、最大で一辺18m四方の南面する建物を想定することができます。弥高寺は山岳密教から展開した中世山岳寺院の中でも典型例で、高山中腹にあり、大規模でまとまりのある姿を見ることができます。
永正9年(1512)、失火により焼失しましたが、天文9年(1540)の文書には弥高寺の坊名が残り、天正8年(1580)に山の西麓へ移ったといわれます。
一方で、応仁の乱以降、山城として機能していたようであることが記政高が「弥高寺より進み」、翌年には京極高清が弥高寺に「御陣」を構えたことが記録にみえます。元亀元年(1570)の信長の北近江侵攻の際、浅井・朝倉軍により、上平寺城とともに改修されたこととわかっています。
城郭遺構としては、南前面に枳形虎口の「大門」と横堀による防御ラインを設け、本坊(本堂)の背後には、畷状堅堀群を持つ曲輪、さらに背後を巨大な堀切で区切っています。南西側面にも随所に堅堀を設けており、寺域の内部の改変を最低限に抑えながら縁辺部を嚴重に防御しています。

弥高寺の歴史

切岸 人工的に急な斜面をつくり、人が登りにくくしたものを。

土塁 土を盛り上げてこった土手のこと。敵の侵入をふせぐ。

堀 防御のために地面を掘った溝。尾根等を深く削り敵の移動をふせぐ「堀切」、斜面で左右の虎口を守るために、虎口の内・または外に設けられた、土塁にするか、縄を張る。

枳形 ますがた。虎口の形を、土塁や石垣で囲んだ空間。からこの名がある。

虎口 城や曲輪の出入を設けたら、進入路を折り曲げるとして、敵が攻めにくいよう様々な工夫がなされた。

曲輪(部) 土塁や石垣などで区切られた区画のこと。本丸、主郭、〇〇曲輪などとよばれる。

縄張 曲輪・堀・虎口等の配置。どのような城からこの名がある。

お城の用語 きほんのま

撮影：高木浩二氏

入定窟

行者谷と呼ばれる場所に、「入定窟」あるいは「石室」と呼ばれる石窟が山腹に設けられています。切石を組んだ小窟で、人がかかんでようやく入れる大きさで、中には役行者の陶製像が安置されています。



大堀切

弥高寺は、本坊の背後に巨大な堀切を設けることによって、背後からの敵の侵入を防いでいます。堀切の大きさは、上端最大幅約20m、下端幅約3m、深さ約6m、長さ約11mを測ります。県内にある堀切の中でも、有数の規模を誇っています。



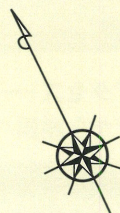
本坊(本堂)跡

本坊(本堂)跡の発掘調査では、直径90cm前後の礎石を検出しましたが、残り具合が悪く間隔も統一されていないため本堂の構造は不明です。基壇側面では二段の石積みを検出し、ここまで縁が張り出した大きな建物だったと考えられます。礎石や石積みは焼けて細かく割れており、記録にみえる永正9年(1512)6月の火災によるものと思われる。



僧坊跡

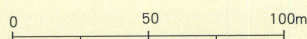
僧坊跡の発掘調査では、三間×六間の庫裏と仏堂を兼ね備えた礎石建物を検出しました。庫裏では火床(囲炉裏)跡を山岳寺院ではじめて発見しました。僧坊から出土した遺物の年代は、15世紀後半が中心です。



宝篋印塔

元は入定窟の前にあったもので、戦時中にいまの場所に移されました。宝篋印塔と五輪塔で、いずれも不完全な組み合わせです。

弥高寺跡遺構図



畝状縦堀群

斜面での敵の移動を阻むための施設です。朝倉氏の城郭に多くみられ、弥高寺が朝倉氏によって改修されたことを示す遺構といえます。

大門跡

弥高寺の寺域に入るところで道が鋭角に折れ曲がる場所があります。この部分を地元では「大門」と呼ばれています。この「大門」は中世城郭の外柵形虎口の形状をしており、浅井・朝倉氏によって改修されたと考えられます。



弥高寺のみどころ

弥高寺は、伊吹山から南に張り出す尾根の中ほど、標高715m付近に築かれた山岳寺院で、地元では「弥高百坊」と呼ばれています。

京極氏あるいは浅井・朝倉氏によって城郭に改修されており、柵形状の「大門」や巨大な堀切が設けられています。

晴れた日には、本坊跡の土塁の上から琵琶湖や遠く名古屋のツインタワーを見ることができます。

